

八王子地区保護司会だより

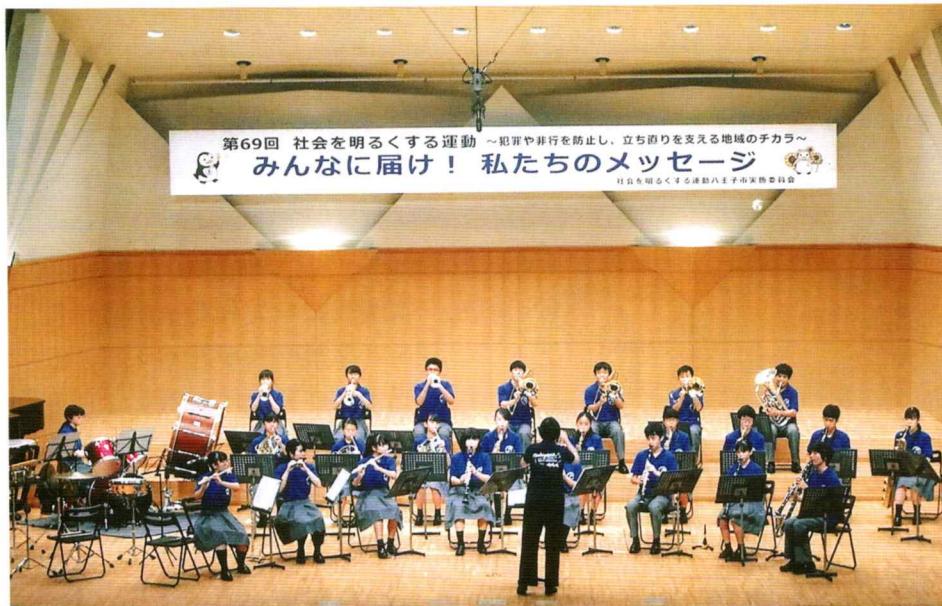
第109号

令和元年8月15日発行

発行 八王子地区保護司会

編集 広 報 部

電話 042-657-4928



八王子市立中山中学校吹奏楽部

安全で安心な住みよい社会をめざして

八王子地区保護司会会长 三入 重夫



本年4月23日（火）に開催された八王子地区保護司会定期総会において新会長に推薦されました。会員の皆様方の協力をいただきながら、諸先輩が築き上げた保護司活動を礎に、更なる発展をめざし大任を全うすべく努めて参る所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、平成11年4月の保護司法改正により、それまでの任意団体であった保護司組織が法制化されて以来、保護司活動が法的根拠に基づき可能になりました。その後、生活環境の変化や世の中の激しい移り変わりとともに多くの見直しがなされ今日に至っております。

その中でも平成29年12月、国として初めて「再犯防止推進計画」が策定され再犯防止元年になりました。犯罪を犯した者が社会の一員として復帰できるよう平成30年度から5年間の我が国における再犯防止施策の指針になりました。それを受け東京都は「東京都再犯防止推進計画（案）」に取り組み、パブリック

コメントの締め切り後、今年7月には策定するとの事です。これを受けて八王子市も再犯防止推進計画案をまとめ策定することになります。その後同様に、八王子地区保護司会は八王子市並びに関係機関団体と密に連携をとり、情報の共有化をめざし、再犯防止に取り組むことになります。特に就労先の確保と民間協力者との活動連携には、ハローワークはもとより八王子市更生保護協力事業主会との強い連携が必要となります。学校と連携した就学支援の実施や非行少年への指導・支援は、学校担当委員会と校長会や各小中学校連携及び情報の共有化をめざして指導が必要とされています。薬物依存者への再犯防止の取り組みについては、より一層八王子市保健所や八王子ダルクなど関係機関の協力・支援は必須になります。

安全で安心な誰もが住みよい明るい社会の構築をめざし、更生保護活動、犯罪予防活動、再犯防止活動に取り組んで参りますので、皆様の更なるご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げ、就任の挨拶と抱負を述べさせて頂きます。

着任保護観察官紹介

宇田 紀之 統括保護観察官



本年度から前任者西平統括の後任として担当させていただいております。少しでもお役に立つことができますよう務めさせていただきますので、ご支援・ご指導を賜りますよう、お願ひいたします。

林田 実代 保護観察官・西分区担当

第二子の育児休業から復帰しました。八王子地区保護司会の皆様との出会いを大切にし、連絡を密に取りながら、日々の業務に取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



平成31年度 八王子地区保護司会定期総会

平成31年4月23日（火）京王プラザホテル八王子において、平成31（令和元）年度八王子地区保護司会定期総会が開催されました。

本年度は、内田實前会長より三入重夫新会長のもとで新体制が発足し、下記のとおり新役員として副会長4名、分区長（右頁）、各部・委員会は下記の部長・委員長が担当して、地区保護司会の職責を担います。

副会長

塙本 秀雄（みなみ分区）

荒井 浩平（高尾分区）

山中 廣司（東分区）

前田善一郎（西分区）

尾崎 敏夫（中央分区）

小俣 博照（東分区）

畠野 和子（高尾分区）

山田 雅彦（東分区）

加藤 克明（高尾分区）

学校担当委員会委員長 町田 照良（高尾分区）



分区長紹介

東分区 秋山 重男

長谷部分区長の後を受け、広い視野で前向きに事に当たっています。東分区の先生方とともに、それぞれの立場でそれぞれの対象者の更生保護活動また保護司会活動に邁進する所存です。

中央分区 青木 隆夫

保護司には対象者への関わりと同時に組織活動が課せられ、時に組織活動が負担になることもあります。目的と成果を分かりやすく伝えることを第一に、役員と手を携え分区の活性化を図りたいと思います。

高尾分区 深須 達男

当分区では自主研修や管外研修などの懇親会の場を活用して情報交換を行います。新任の会員が経験豊富な会員と手を携えて不安や疑問を乗り越えてゆく中でスキルを高め次に繋げていければ幸いです。

西分区 新野 照代

分区長のお役目を頂き5年目の活動になります。保護司会活動を通し、安全で安心して住みやすい地域を目指し保護司の意見が通る西分区活動をして参ります。皆様のご協力をお願いします。

みなみ分区 本田 良久

心と心を繋げられるようにとの思いで面接を続け14年。新米の分区長として、分区の皆さんとも心と心を繋げて活動できるよう努力して参ります。そのために一層の勉強を重ねて参ります。

特集 学校との連携について(第1回)

保護司にできること

高尾分区 伊藤 裕司



保護司が学校との連携を図り、小学校・中学校で発生する「いじめ」「不登校」「校内暴力」の改善の一助となるようにと願うものです。

昨年8月末に八王子の中学生が電車に飛び込み自殺を図り亡くなりました。なぜ大切な命を絶ってしまったのでしょうか。現在、市教委内に調査委員会が立ち上がり、鋭意調査がなされ、今年中には報告書が提出されると聞いています。

このような事が再び繰り返されないように、犯罪・非行の予防の役割をもつ我々保護司として何が出来るでしょうか。市内の学校と連携を図り、青少年の健全育成に尽力することが求められるのだと思います。

私は、毎年7月に実施している「社会を明るく

学校に関わる保護司にできること

東分区 山中 廣司



中学校に地域学校運営協議会が設置されています。保護司も各地区の学校で、協議会の委員になっています。この制度の狙いは、学校の中に地域の人や保護者の目や風を入れ、学校内がよりオープンになり、生徒と教師が良い緊張感を持ち、生徒の学力向上、クラブ活動など有意義な学校生活を送るために支援組織とすることです。そのメンバーは保護司、民生児童委員、主任児童委員、育成指導員、町会・自治会長、PTAの代表など児童・生徒に関わった方々で構成されています。具体的な活動は、各学校、地域により多様です。目的の第一は、今まで学校に縁がなかった地域の方、保護者に学校へ来ていただき、学校の様子を見てもらって意見やアドバイスを気軽に述べ易い環境作りをすることだと思います。その大人たちに一歩進んでボランティアとして生徒と直接関わり、生徒たちに学校の中も地域社会と同じだと感じてほ

する運動」の中で八王子地区の作文発表会はすばらしい内容だと思っています。八王子地区保護司会が中心となって、学校との連携を推進している事業で、私は毎年、その意見発表が楽しみです。

その中の一例を紹介します。市内のある小学生の「いじめ」についての体験発表です。同級生からいじめを受け、その事を先ず母親に相談し、続いて母親が担任の先生に相談しました。そうこうして、いじめは解決したという体験談です。そして、二つの勇気を提案していました。先ず相談する勇気。そして、周りでいじめを見たら止める勇気。すばらしい内容でした。いじめ問題解決モデルケースではないでしょうか。

私は、この発表のあった翌日、その学校に行って校長先生と担任の先生に話を聞きました。そこで判ったことは、その学校では2年前から学校全体で「いじめゼロ」に向けて取り組んでいたという事です。普段の取り組みの成果だと思います。

学校との情報連携を図り行動連携につなげて、再び命を絶つような事件が起きないように努めたいと思います。

しい、そのような願いがあります。

我々保護司が学校に関われることは多くあります。道徳や総合学習の時間において、講師やゲストティーチャーとして、非行少年、刑務所出所者の生き立ちを目の当たりにしている保護司が、彼らがどこで道を外れたか、どのような行動がまづかったのかなどを、生徒、保護者に話すことにより、自らの将来の道、我が子の育て方の参考になると思います。講話の中で必ず出したいのは「規範意識の大切さ」です。小中学生の時に規則を守ることは命を守ることになることを徹底して教えます。

近年、青少年にも薬物事犯者が増えています。中学生の生育歴を見ると、悪ぶって喫煙を経験した、そこで大人の毅然とした指導もなく、規則や法律を破ることに抵抗もなくなり、次第にシンナーや大麻、覚せい剤にエスカレートし、結局、大切な人生を、命を粗末にしてしまった・・・。このような悲劇を繰り返さないためにも、我々大人が是々非々をしっかりと伝えなければならないと思います。

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～
“第69回 社会を明るくする運動”
令和元年7月1日～31日

全国で“第69回社会を明るくする運動”が始まりました。7月1日、八王子は朝から雨でしたが、「再犯・再非行防止！」を旗印に活動しました！八王子市実行委員会は、八王子市役所児童青少年課、八王子地区保護司会、更生保護女性会、民生委員児童委員協議会、BBS会等18団体が中心となり、新たに高尾山口駅を加えた、9駅11か所の駅頭で、235名が広報活動を行いました。

駅頭一斉広報活動



八王子駅北口で出陣式



BBSの若者も参加



市長も参加



西八王子駅南口



高尾駅北口



八王子みなみ野駅



北野駅



高尾山口駅





更生ペンギン
ホゴちゃん

“第69回 社会を明るくする運動” みんなに届け！私たちのメッセージ



更生ペンギン
サラちゃん

“第 69 回社会を明るくする運動”の一環として、「第 68 回社会を明るくする運動・作文コンテスト」の結果発表・授賞式が、令和元年 7 月 15 日（海の日）いちょうホールで行われました。市内小・中学校から多くの作品が寄せられ、5 名が優秀賞に選ばれ、賞状と記念品を贈られ表彰されました。

第 1 部 作文コンテスト表彰式・入賞作品発表

八王子市実施委員会最優秀賞

霜田 空羽さん（松ヶ谷中学校卒業生）
「こころのたねを蒔く」

八王子市実施委員会優秀賞

戸谷 文音さん（柵田小学校）
田辺 尚也さん（楳原小学校）
瀬戸 秀一さん（加住中学校卒業生）
(瀬戸さんは二度目の優秀賞受賞でした)
服部 桃香さん（七国中学校卒業生）



最優秀賞
霜田 空羽さん

若さいっぱいのダンスパフォーマンス、一生懸命練習した成果を歌った素敵な合唱、誰もが知る曲と本格的な吹奏楽曲で聴衆を酔わせたプラスバンド、800 名余の来場者が大喝采を送りました！



3 年生の熱演

八王子学園八王子
中学校
ダンス



笑顔・笑顔・笑顔あふれる
キラキラのダンス



元気いっぱい！ 第 2 部 小・中学生による音楽の集い



出番を前に…

八王子市立第一
小学校 合唱



素敵なハーモニー



工夫された選曲で大好感

八王子市立中山
中学校 吹奏楽



難しい吹奏楽曲も…



特集 私の考える再犯、再非行防止No.6

～更生保護施設の対象者への支援から学ぶ～

今号は、「再犯・再非行防止」を考える上で、日々が入所対象者への指導と支援の中にある更生保護施設を取り上げました。その日常の支援の方法と、退所（退苑、退会とも）後の具体的な支援、また国が制定した再犯防止推進法と、具体的に再犯を防ぐための施策であるフォローアップ事業をどう取り入れているかをうかがい、紹介することで、私達保護司が対象者にどのような支援また助言ができるかについて考えたいと企画しました。2カ所の更生保護施設、「自愛会」では糠信富雄先生、「紫翠苑」では真田安浩先生からご意見をいただきました。

Q 最初に両施設内での入所者の様子と職員の先生方がなさっている日々の支援について具体的にうかがいます。



糠信 施設内では同じ境遇の者同士が寄り添って共同生活し、職員の適切な助言を受けつつ、食・住環境が保証されています。施設の規則を遵守し、就労を励行しさえすれば、当面は安定した生活を維持できます。

真田 入所している方は、十代の若者から高齢の女性までと年齢層が幅広く、それぞれに適切な毎日の指導・助言と適時の面接を行い、生活を立て直し自立する準備ができるよう働きかけています。特に未成年の場合、在苑期間が1年から2年以上に及ぶこともあります、言わば自分の家、居場所のような環境づくりも心がけています。

Q 対象者はそれぞれの保護観察の期間が終了すると施設を出て行かなくてはなりませんが、その時には生活と暮らし、将来が大いに心配になりますね。

糠信 退会して住居を自ら確保し社会で自立していくことになると状況は一変します。地域社会にはその地域に即した独特の決まりや長い年月によって培われた地域独特の人間関係があります。親族においても難しい状況が予想され、今度は一人で考え対処しなくてはならなくなります。

真田 犯罪非行を原因として矯正施設に入り更生保護施設に帰住する人は、退苑後も適切な相談

者・支援者がいないケースが多いことが大きな問題です。退苑してからなお相談に来る人を見ると、更生の道のりが施設から社会へとどのように形成されていくのかを深く考えさせられます。

Q 自愛会の退所者が抱える不安も同様ですか？

糠信 施設にいる間は、すぐに相談できる職員や同僚が身近にいたり、関わりたくない現実から逃避できたりする居場所があったのに、今度は一人で考え対処しなくてはなりません。なじみの薄い社会生活に一人で立ち向かうのは相当困難が伴います。社会に復帰するということは、これらの困難に打ち勝ち、社会に同化することです。

Q 紫翠苑では特に薬物事犯者が多いと思います。在苑中は定期的に回復訓練が実施されますが、退苑後はこうした手当てが無くなるので心配ですね。

真田 薬物事犯者には苑だけでなく、矯正施設、保護観察所などでも一貫した認知行動療法に基づく指導が進められるようになってきており、対象者自身の意識が変わってきたと感じます。一方で、窃盗事犯者の指導にはまだ決め手を欠いていると思っています。苑では自立のための指導が現在も中心ですが、昨年度からカウンセリングも導入して、内心的問題に触れる試みをしています。

国が進めるフォローアップ事業の目玉は薬物依存回復訓練ですが、薬物事犯者には退苑後も、ダ



ルク、NA また病院に繋がるように指導をしており、日常的な働き掛けをして、薬物から遠ざかるための生活相談支援を中心に行ってます。電話相談が主ですが、来訪を受けることもあり、退苑した人を招いての茶話会を行うことも試みています。

Q 自愛会ではどのような具体的な形で支援なさっていますか。これも強いフォローアップの力と言えると思いますが。

糠信 自愛会では
退会する一部の方
に3ヶ月後の状況
をアンケートに回
答する形で状況の
把握に努めています



(自愛会)

方で今後も連絡をしてよいと答えた方にはその6ヶ月後、さらに1年後とアンケートを更新しています。この形式ですと、1年9ヶ月後まで生活の状況が把握できることになります。その状況を把握する中で支援が必要と思われる方には職員が往訪して相談に乗るなどの措置を取っています。

真田 退苑者には定期的に苑に連絡を入れて、近況報告の後に相談したいこと、聞いてもらいたいことを漏らす方が多いと思います。その近況や相談する様子を聞いていると、彼女たちにとって苑が施設を出た後、自分を振り返り確認するよがなっていることが感じられます。自然に苑がフォローアップとしての拠り所となっていて、更生施設としては常に相談できる窓口を開けておくことが大切と思っています。

Q 退会者に対して、一人一人行っている具体的な支援にはどんなものがありますか？

糠信 アパートの更新手続き、年金支給、マイナンバーカード申請手続きや体調管理・病院紹介等々、退会者の相談に乗っています。さらに地域での生活定着に向け、地域包括支援センター等の福祉機関と相談、協議も行ってきました。さらに退会者に限らず、悩みを抱える被保護者のために月に1回の弁護士による法律相談の実施、ファミリーコンステレーション等の心理療法、薬物やアルコール依存者に対してはダルクやAAとの面接を積極的に推し進めるなど部外者の支援を活用

しています。

Q 更生保護施設の職員である先生方も、観察所から委嘱されて面接、報告を行う私達も、再犯・再非行防止のために、対象者に対して継続的な支援と助言を行っていますが、社会の理解についてはどんな課題を感じておられますか？

糠信 当会の被保護者の平均在会期間が他と比べて短いということです。長ければよいというわけではありませんが、十分な処遇を行う時間が少ないのも実情です。また限られた職員数で、個別処遇に加えてフォローアップ事業を推し進めるには対応が不可能な場合も生じます。被保護者の了解を得て退会後の生活も追確認できる体制の構築が望されます。



(紫翠苑)

真田 なかなか難しい現状ですが、再犯防止のためにには、どうしても適切な周囲の理解者・支持者の存在が望まれます。こ

の地道な動きを点から線へ、さらに面にしていく取り組みを進めていかなくてはならないと考えています。そのためには社会が犯罪者に対する偏見を捨てて、更生の実態を知ることが必要と思います。

(注) NA、AA…薬物、アルコール依存症からの回復・脱却を目指す依存者の、匿名性を担保した自助グループ。

(文責 広報部 山田雅彦)

新任の保護司紹介

令和元年5月25日発令



兒嶋 直子
(東)



立石 晴美
(東)



黒田 昌代
(高尾)

シリーズ

保護司によるハ王子探訪

～昭和・平成時代に続き、
令和元年8月の八王子の祭り～

東分区 長谷部 好昭

彫刻山車は八王子まつりの万華鏡。

八王子の山車まつりは江戸時代より300余年の歴史があります。市街地の氏子中心とする山車まつりは八幡八雲神社の祭礼を下(しも)のまつり、多賀神社の祭礼を上(かみ)のまつりとして市民に親しまれて来ました。



江戸時代後期から明治中期にかけて人形山車として人気を博し、明治後期からは山車に彫刻を全面に施した彫刻山車のまつりとして名声を得て、現在は関東屈指の祭りとして人気を呼んでいます。

昭和20年8月の八王子大空襲で8台の山車を焼失して、その後、3町会（上八日町、八日町1・2丁目、横山町3丁目）の山車が再建されています。現在19台の山車によって毎年甲州街道と各地元町会内を舞台に華麗な山車巡行が行われています。見どころは山車同士のすれ違いの時に（ぶつけ）が行われ、お互いお囃子の競い合いで祭りは最高潮に達します。

退任の保護司紹介

～長い間、お力をいただきました～

大石 創元（西） 平成20年2月初任

川野 正一（みなみ） 平成22年9月初任

悼

生前のご功績を忍び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

石川 裕司氏（東分区）
令和元年7月1日ご逝去



祭りが終わって翌年の春先には又、子どもたちが大人に交じって近所の会館や集会所でまつり囃子の練習風景等が見られ、笛や太鼓の音でやがてもうじき【あー夏が来るんだなあー】と感じるのです。

八王子まつりが市民の皆さんと交流を更に深め、地域での思い出に彩りを添えています。次の世代へと引き継がれ伝承してこそ偉大なまつりです。

新元号になり、新たに天皇陛下即位をお祝いして今年の祭りも19台の彫刻山車が参加します。合わせて市民による神社神輿の渡御と3千人の民謡流し踊りや太鼓大合戦が盛大に行われます。

今夏の八王子まつりは令和元年奉祝記念行事として執り行われます。



まつりは日本の文化です。子どもたちは日本の宝です。

編集後記

この広報誌は昭和57年9月に始まり37年、時も流れ昭和から平成そして令和となり、3ヵ月が過ぎました。

平和な日々と思っていた矢先、とんでもない事件が起き、一人の身勝手な人間によって35人の尊い命が奪われ社会を明るくする運動が空しく思えるような出来事でした。このようなことが少しでも減らせるよう保護司として頑張りたいものです。（渕上）